

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	旅行代理店（企画）	販売量の動き	・海外旅行が好調である。東日本大震災で大きくマイナスとなった前年の反動から前年比が大幅に伸び、2010年比でみてもプラスになっている。国内旅行も前年比、10年比共に伸びているが、海外ほどではない。客の目は海外にシフトしている。
	やや良く なっている	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前年は10日以上雨が降った影響や競合店の閉店セールの影響をかなり受けていたため、前年比6%減であったが、今年は同10%増となっている。特に婦人、紳士共に衣料品関係が前年比10%増となっている。身の周り商品は前年比30%増、家庭用品が同10%増、食料品が同1%増となっている。また、来客数は前年比1%増とあまり伸びていないが、購買率や客単価、1品単価がすべて上がっている。そのため総じて売上は良い。同業他店の2店についてもそれぞれ前年比5%増で良いと聞いている。
		観光ホテル（総務）	販売量の動き	・売上が若干ではあるが増加している。
		都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・前年は東日本大震災の影響で、団体客や外国人観光客が激減していたが、今年は一昨年をやや上回る回復をみせている。前年比では20%以上の増加となった。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ホテル全部門で一昨年並みまで来客数は回復傾向にある。隣接するホールの稼働も良いため、特にレストラン部門の来客数が増えている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・リゾートやテーマパークが目的の旅行が好調である。レジャー需要が活発になっている。しかし、LCC（格安航空会社）の開設もあり、安い移動手段が選ばれる傾向もある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・介護報酬改定後3か月が経過し、業界全体が落ち着きを取り戻しつつある。同時に、改定影響も思ったほど小さくなく、また客も季節的に増加傾向にある。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・来客数が増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客の動きをみると、3か月前よりも購買意欲の高い客が非常に多い。具体的に購買につながっており、良い状況である。雨の日が多くても購買意欲が高く、販売量は増えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・梅雨入りから大雨が続き、来街者が少なく、商店街内での買い回りが少ない。また、客は目的の食料品、消耗品だけを購入する傾向にある。
商店街（代表者）		お客様の様子	・今月は雨の日が多く、年配の客が多い商店街は厳しい状況となっている。また商店街は駐車場の狭いため、来客数が少なく、商店街に来街しにくい悪い条件がそろっており、厳しい。	
一般小売店〔青果〕（店長）		競争相手の様子	・中央市場で大型店の青果のバイヤーと話す機会が多いが、前年に比べて今年は厳しいという。また、地方紙に入ってくるチラシの枚数がここにきてかなり増えている。競合店が増え、かなり厳しい状況にある。	
一般小売店〔精肉〕（店員）		それ以外	・客の様子をみる限り変化がなく、景気は3か月前とほとんど変わらない。	
百貨店（総務担当）		販売量の動き	・来客数は増加しているが、客単価の低下傾向が強くなり、売上は増えない。飲食店舗もランチは回復傾向にあるが、ディナー、特に宴会需要がなく、厳しい状況が続いている。	
百貨店（営業担当）		単価の動き	・クリアランス期間の変更や天候の影響で金額、来客数共に減少しているが、買上単価が改善している。化粧品や特選バッグ、特選雑貨が好転した。また、お得意様やクレジットでの購入に比べ、現金扱いの減少が続いている。	
百貨店（営業担当）		お客様の様子	・客の様子をみると、6月末からクリアランスが一部スタートするが、7月の本格クリアランスを待つ姿勢が強い。今年は7月も2回にクリアランスが分散しており、クリアランス待ちの姿勢が非常に強い印象である。	

百貨店（業務担当）	お客様の様子	・これまではバーゲン時に、価格的に魅力のある商品のまとめ買いや前もって買って置くという様子がうかがえたが、最近では、必要のない商品の衝動買いはない。また、必要な物をいかに賢く買い、無駄をしないかを考えている客が多い。
百貨店（企画）	来客数の動き	・前年末から回復傾向であった売上が前年並みで推移している。天候不順の影響もあるが、計画値を下回っている。
百貨店（営業政策担当）	来客数の動き	・来客数は増加し、買上客数は横ばいである。客単価は微減となり、売上は前年並みである。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・購買の二極化が進むなかで、年齢の高い客の来店が減少している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・消費に力強さを感じない。販売促進の強化を行い、何とか前年の実績を確保しているのが実態である。特に平日、あるいはセールのない日については、大変厳しい販売状況にある。
スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店の出店が相次ぎ、競争が激化している。来客数の減少に歯止めがかからない。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数にあまり変化はなく、客単価も前年を下回った状況が続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・北部九州では雨が少なく、気温もさほど上がらず中途半端な気候が続いている。春先に一時消費が回復したようだったが、5～6月にかけて停滞気味となっている。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・梅雨の最盛期に入り、例年は防湿対策や防暑対策関連の商材が動き始めるが、今年は雨量が多いにもかかわらずそういう季節商材の動向が鈍く、客の反応がおおむね遅い。必要な最寄品の購買層のみの活気はあるが、商品単価は上がってこない。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・先月よりは売上は上昇しているが、3か月前からみると、ほとんど変わらない。ボーナスは出たが、税金の支払いで、客はあまり余裕がない。
コンビニ（店長）	お客様の様子	・店が5月中旬にオープンしたばかりということもあり、これまでの状況は分からないが、オープン時より客の変化は特にはない。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・新しく移転して1年が経ち、来客数は若干伸びているが、客単価が若干減っており、売上は総じてあまり伸びていない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・商店街の改装工事が進行中につき来街者が少ない。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・ボーナス時期になっても、まとめ買いの客が少ない。単価にシビアになっているのか、平均客単価が前年に比べて低くなっている。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3か月前は春の立ち上がりの季節だった。6月は夏の商材が動き始めたことで3か月前とあまり変わらないが、今月も前年を上回っている。物が少し動いていることは間違いないが、景気が良くなっているとまでは言えない。季節が変わったことで、客はその季節の新しい商品を探して購入している。
衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・アジア圏からの客、特に韓国や中国からの客の来店が増加している。MADE IN JAPANという表記を見ての購入が多い。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・本来ならもう少し売れてもよいが、実際はなかなか客の動きが本格化しない。気候の問題もあるが、根本の理由は全くよく分からないのが現状である。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・昨年7月のアナログ放送の停波から、テレビの動きがずっと低調であり、総じて悪い。上向きになっていく要素もなく、ずっと底をはっているのが現状である。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・例年この時期に好調な除湿器やエアコン等の動きが鈍い。
家電量販店（企画・IR担当）	単価の動き	・テレビの販売単価が徐々に上がっているものの、まだ本格的な景気の上向きとまでは言えない。今後の販売単価の動向を慎重にみていく必要がある。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・エコカー補助金と新型ハイブリット車のW効果で新車の販売台数が好調に推移している。中古車販売、サービスの売上が堅調であり、今年に入ってからは売上、利益共に計画を上回る高実績をキープしている。

	住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・毎月のキャンペーンが春より不調となっており、なかなか回復しない。新部門は前年同様良くなっているが、トータルでは横ばいである。
	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・前年と比べると客の入りは横ばいである。梅雨の時期ということもあり、客は外に買物に出る機会が大分減っているが、売上は前年と変わらない状態である。
	その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は下落傾向であるが、販売量は昨年とさほど変わらない。夏の賞与支給については、やや厳しいとの客の声を聞く。
	高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・来客数は3か月前と変わらず、伸び悩み気味である。
	その他飲食 [居酒屋] (店長)	競争相手の様子	・当地には新規の店が次々にでき、客はそちらへ流れている。商店街は非常に来客数が少なくなり、寂れていっている。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊は、東日本大震災によるキャンセルがあった前年の反動で大幅に増加した。宴会も元に戻っている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・当地では人が動かないとお金が落ちない。県内外とも人の動きが悪く、タクシー利用も今一つ伸びていない。
	タクシー運転手	お客様の様子	・客は単価が少しでも安いものを選ぼうとしているので、売上はあまり良くない。
	通信会社 (管理担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状況となっている。
	ゴルフ場 (支配人)	来客数の動き	・台風4、5号の通過により、梅雨前線が九州の緯度で停滞し、連日の雨で客足は止まったままである。この3年間は地球規模の異常気象がゴルフ場に大きな影響を及ぼしている。梅雨が明けるまでは客足は伸びない。
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・今月は梅雨で、しかも強い雨が連続して降る日が続いているので、商店街への来街客が大変少なくなっている。さらにボーナスもあまり期待できないことから消費が落ち込んでいる。
	商店街 (代表者)	販売量の動き	・梅雨に入って客足の伸びが悪く、販売量は必然的に減少している。
	商店街 (代表者)	来客数の動き	・例年5月に比べて、来客数、売上共に減少している。今年は天候不順も影響し、来客数、売上は例年を下回っている。
	一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・暑さが増し、雨が続いており、客の来店は少なくなった。事務所用のお茶の注文は金額が低い麦茶等に変わり、夏場の売上に期待できない。
	百貨店 (売場主任)	お客様の様子	・気温はほぼ前年並みであるが、昨年好調であったクールビズ商材の動きが悪い。特に半袖ワイシャツ、ステテコは前年を大きく下回る。昨年購入した客が本年は買い控えをしている。
	スーパー (店長)	来客数の動き	・競合店が出店した3月と比べ、来客数が約6%ほど減少している。
	スーパー (店長)	競争相手の様子	・競合店の出店により、売上は前月比13%ほど減少している。特に青果、精肉、鮮魚が厳しい状況で推移している。競合各社ともチラシを出しているが、いずれも少し厳しい状況で推移している。
	スーパー (店長)	来客数の動き	・競争激化の問題もあるが、来客数が一方向に増えない。5月は少し持ち直しの傾向があったが、6月は非常に悪い状況になっている。7月からは計画停電も予定されており、先行きの不透明感が更に強まっている。
	スーパー (総務担当)	お客様の様子	・競合店との客の奪い合いで、低価格路線を避けられず、デフレスパイラルから抜け出せない。また、来客数が増加せず、業績は悪化している。企業利益を確保するため、コスト削減を更に追求しなければならず、企業活動に赤信号が燈ったままである。
	コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・6月は天候不順もあるが、競合店の出店が大きな影響を及ぼし、厳しい状況が続いている。
	コンビニ (販売促進担当)	販売量の動き	・100~120円のパンが主力であるが、食パンの動きが少し鈍っている。また月間を通して、売場が完売状態になるというのは1日もない。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・今まで気軽に購入していた客も抑え気味の購買になっている。
	乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・5月以降、減税対象の車種が少なくなり、客の購買意欲がなくなってきた。

乗用車販売店 (代表)	競争相手の様子	・周りの業者から良い話を聞かない。5月までと比較して、かなり動きが悪かった。	
その他専門店 〔書籍〕(地区 支配人)	競争相手の様子	・自社、競合店共に売上実績が良くない。売上が全体的に落ち込んでいる。	
その他小売 〔ショッピング センター〕(支 配人)	販売量の動き	・異常気象とバーゲンの時期がズレたことにより、消費者の購買意欲が低下している。	
その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 (従業員)	来客数の動き	・中旬以降、空港利用の搭乗客が減少している。そのため、店舗への来客数が減少し、売上が増えない。	
高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・月初めは客の出足が悪く客があまり入っていなかった。また台風や大雨の影響で客足が遠退いていた。ただ、後半にかけて株主総会等の客が増え、少し回復の兆しもみせているが、やはり今月は全体的に、やや下向きである。	
高級レストラン (社長)	来客数の動き	・来客数が減っている。	
高級レストラン (専務)	来客数の動き	・節電や大雨等もあり、人の流れが悪くなっている。また暑くなり、客は出控える。	
観光旅館組合 (職員)	来客数の動き	・大雨や台風の影響もあり、週末でも来客が少なかった。	
都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・5月までは非常に動きは良かったが、6月に入った途端、インターネット等の予約の単価が落ち始め、6、7月の予約状況が非常に厳しくなっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・24時間の営業であるが、大変稼働率が悪く、売上も極端に落ちている。また、遠来の予約が今月は良くなかった。	
タクシー運転手	お客様の様子	・夜の歓楽街の客をみると、サラリーマンがかなり減っている。そのためにタクシー業界は売上がかなり落ち込んでいる。特に夜の落ち込みはひどい。当地では、タクシー会社が倒産している。	
通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・6月を迎えて、例年の売上と比べても非常に悪い。珍しく携帯電話が売れていないという状況が続いている。	
通信会社(総務 局)	販売量の動き	・昨年のアナログ放送の完全デジタル化以降、加入者数は伸び悩んでおり、月次においては、純減の月もある。特に新規加入については、苦戦を強いられている。	
通信会社(業務 担当)	販売量の動き	・6月は夏のキャンペーンで例年市場が活性化するが、今年は新商品発売の遅延と入荷台数の減少から、スマートフォン本体の売上が減少している。また、関連商品のアクセサリーの売上も落ちている。	
通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・販売量が落ち込んでいる。	
ゴルフ場(従業 員)	お客様の様子	・梅雨の長雨の影響を受け、当日キャンセル等により、入場者は前年を下回るのではないかとこのところまできている。そのなか、消費税増税の問題で深夜のコンペの誘致がだんだん後退気味となっており、プレーも今後は回数を減らすような話を聞いている。	
美容室(経営 者)	来客数の動き	・3か月前は卒業式、入学式等イベントがたくさんあったため、どうにか良かったという状況であったが、現状は社会行事が何もなく、雨の影響もあり、売上は良くない。景気は悪い。	
美容室(店長)	来客数の動き	・雨が続いており、例年に比べても来客数の動きが悪い。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・宅建業の仲介は客の問い合わせ数と成約件数が非常に落ちており、景気はあまり良くない。買い控えも続き、土地の動きが非常に悪くなっており、成約に至っていない。	
住宅販売会社 (代表)	競争相手の様子	・周りのハウスメーカーや競合先の大工、業者の仕事が空いている状況が発生している。全体的に受注が取れていないというメーカーの業績悪化が、下請け業者に悪影響を及ぼしている。	
悪く なっている	一般小売店〔鮮 魚〕(店員)	来客数の動き	・来客数が減少している。なぜ客が来ないのか分からず、非常に困惑している。

		一般小売店〔食料雑貨〕(店員)	販売量の動き	・近隣の出前がメインのラーメン店等、飲食店が相次いで閉店している。街でなじみの居酒屋や定食屋も軒並み最低の売上を更新している。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今年はクリアランスが各地バラバラでスタートしており、なかなか統一感を出せていない。若者がターゲットのブランドは前年とほぼ変わらず、売上が伸びているが、ミセスブランドの動きにまとまり感がない。また、本当に暑くなってから買うという客が多く、先取りの買物はかなり減っている。6月は非常に厳しい状況である。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・月によって、来客数が良かったり悪かったりする。区画整理中ということもあり、周りには客が動いている。新しい店がどんどんできており、競争が激化している。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・売上が低下し、消費者の購買意欲がますます悪化している。消費税増税問題や原子力発電所問題が大きくなってきている。消費者は明るく前向きな生活をしようという姿勢にはなっておらず、最悪の状況となっている。
企業動向関連(九州)	良くなっている やや良くなっている	—	—	—
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・醸造業であるが、塩麴のブームが一過性でなく、強くないがパワーを感じるのので、売上につながっている。
		建設業(社員)	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注が増加傾向で、週に15~20件の入札が実行されている。受注する業者に偏りはあるが、今後の可能性にかけて、競争に参加するしかない。後は受注できると信じて挑戦するしかない。
		金融業(営業)	取引先の様子	・先行きの不透明感が強かった製造業の受注状況も、3か月前に比べて落ち込んではいない。先がみえないと言いつつも、一定量は確保している。今しばらくはこの状況が続くと予想され、切迫感はない。
	変わらない	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・6月は梅雨の時期でもあり、例年厳しい状況であるが、今年もかなり厳しい。今まで安定していた冷凍食品加工メーカー筋の素材原料の納品についても少し鈍くなり始めている。居酒屋やスーパーも依然として販売の伸びが悪い。また、生食製品等は生肉食中毒事件の影響がかなり大きく、依然として落ち込んでいる。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・端境期であるが、例年以上の受注量で推移している。
		繊維工業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は変わらないか、良くなっているほうだ。しかし、取引先が吸収、合併し、状況が好転したためである。これがなければ、受注がなくなっていたかもしれない。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ユーザーからの受注量が安定しない。特にヨーロッパに輸出しているユーザーからのオーダーがなくなっている。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・部品加工ユーザーの発注量及び装置引き合い案件が少なくなっている。
		電気機械器具製造業(経営者)	競争相手の様子	・ここにきて新規に事業を始めるところが入ってきて、競争が激化している。以前であれば、取引先の受注量や販売量の動きが気になっていたが、これからは競争相手の動向を注視する必要がある。存続に関わるような、非常に厳しい状況になっている。
		精密機械器具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量の動きが分からない状況であるため、先がみえない。
		輸送業(総務)	受注量や販売量の動き	・政治が不安定であり、企業動向をみても景気は良くない。
		通信業(経理担当)	それ以外	・企業動向に状況の変化を感じない。
		金融業(得意先担当)	取引先の様子	・これまで法人、個人共に貸出金に対する条件変更の申し出が多かったが、今月は条件変更の申し出は1件もなかったといった状況で、落ち着きを取り戻している。ただそれは、景気が上向いているということではなく、条件変更はほぼ終わったという状況である。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・消費税増税問題により、マンション業者等の動きが活発化している動きは感じられるが、景況感を感じるほどの強い動きとしては捉えていない。

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業の大半は、年度末の受注を終え一息ついた感がある。3か月前と比べ大きく変わったところはない。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・新しい企画に取り組もうとする意欲がほとんどうかがえない。今までのことを踏襲するだけに全力を尽くしている。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先で著しく業況が悪化しているという話は聞かず、また堅調に推移しているという話も聞かない。また、自社サービスに対する問い合わせ件数にも変化がみられない。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・牛乳の委託販売をしているが、牛乳だけの需要は厳しく、価格的にも非常に厳しい。総じて低迷している状況である。	
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今年4月までの年度末需要とでも言うべき忙しさは全くなかった。政治の混迷も重なり、消費税増税は国民が納得するタイミングを完全に外してしまつたため、景気が下振れする懸念が消費行動に出ている。この先の混沌とした経済を思い、消費者はかなり購買意欲がなくなっている。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の動きがない。食品から化学工業品等、ほとんどの品物が動かない状態である。	
	新聞社（広告担当者）	受注量や販売量の動き	・通信販売の東京、大阪地区への広告出稿が好調だが、九州地区への出稿は前年を10%ほど下回っている。また昨年の節電要請、原子力発電所関連の意見広告など一過性の出稿が今年はないため、全体的な売上に対する前年比は10～20%減と低調である。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・取引先との話のなかで、昨年と比べて非常に悪いという話をよく聞く。昨年は東日本大震災で遅れていたイベントが5～6月に一斉に開催されていた。3、4月と比べて月単位としても6月は少し厳しくなっている。	
	その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・設備投資の引き合い件数、金額共に減少傾向にあり、特に5千万円以上の大口引き合いが大幅に減少している。	
悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・日用食器の生産は夏場に向かってだんだん悪くなる傾向が従来であるが、今年は特にひどいような状態である。節電や計画停電も噂され、一般の消費が停滞気味である。当社自体も春先に出した新商品の動きが停滞気味であり、新しい商品づくりを進めている。	
	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・4月以降前年割れを記録している。	
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・焼酎メーカーの在庫がダブついている。飲料店の需要が落ち込み、プロモーションや値引きをしても売れない。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村におけるまちづくりに関する予算が少なくなっており、建設コンサルタントへの発注件数が減少している。このため、調査、計画、設計等を行うコンサルタントの受注量が減少し、入札においても4割前後の低価格で入札する業者も出ている。	
雇用関連 (九州)	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・接客業を中心に、単発、短期の注文が増えている。製造関係についても、中元要員での注文が例年通り順調にきている。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・新規求人が前年同期に比べ大幅に増加している。一方、求職者は減少傾向である。また就職件数は求人の増加に連動して増加している。雇用関連の動きは活発化している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	採用者数の動き	・航空系やシステム系のサービス産業において、ここ数年で明らかに採用人数の増加がみられる。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・わずかであるが、初めて新卒の採用を計画している企業や採用を再開した企業が見受けられる。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣業を行っているが、人材紹介の依頼が増えた。ただし、正社員になってからの条件が悪く、安く雇用するために正社員という待遇を使っているようだ。	
	人材派遣会社（営業）	求職者数の動き	・求職者の数は増えているが、求人ととのマッチングが進んでいない。	

	新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・第1四半期の新聞求人広告は微減だった。復興需要も一段落し、派遣会社の求人もやや減少している。
	新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・求人広告の出稿状況が低位で推移している。
	職業安定所(職業相談)	求人数の動き	・前年同期比で減少傾向にあった新規求職者数が微増したが、新規求人数は増加傾向で推移しており、総じて横ばいの状況にある。
	民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・求人数は減少しており、求人社数も減少している。求人に対する需要は落ち着いている。
やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	雇用形態の様子	・明るい材料が何もない。県内の大手半導体下請メーカーの撤退も決まり、大量の失業者が放出されるなか、代替して受け入れる企業がない。
	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・求人依頼数が減少傾向であり、短中期的にみても、増員等のニーズが少ない。
	新聞社〔求人広告〕(担当者)	周辺企業の様子	・求人広告は医療、福祉系が好調である。春先に福岡都市圏に九州最大規模の大型ショッピングセンターが開業し、一時的に求人も増えたが、消費の伸び悩みや、夏のボーナスに不安もあるせいか、パート、アルバイトの求人が少ない。
	職業安定所(職員)	それ以外	・4～5月にかけては新規求職者が増加するため、有効求人倍率が3か月前の0.85倍から5月は、0.65倍と0.20ポイント悪化した。
悪くなっている	民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・求人数が、前年同期に比べて約10%少ない。このことが競争激化を生み、価格低下を招いている。